

事業名：国営木曾三川公園

意見・質問	回答
公園事業の便益には、何が含まれているのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接的に公園を利用することによって生じる「利用価値」と、公園が存在することでもたらされる緑地の保存や景観の提供、防災機能といった「間接利用価値」の2種類を便益計上しています。</li> </ul>
<p>全体事業の費用便益比は前回より上がっているが、残事業は前回より下がっている要因はなにか。</p> <p>また、残事業の総便益の方は前回より下がっているが、総費用が上がっている要因はなにか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回評価時以降追加供用・開園しており、便益は、開園面積等を基に計算しているため、開園した分だけ残面積の減少により残事業の便益が減少したためです。</li> <li>また、残事業の総費用が上がったのは、主に、評価基準年を変更したことにより割引率が増加したためです。</li> </ul>
<p>本事業は令和15年度に完了するが、その後も含めた整備に関わる長期的なビジョンというものはあるのか。資料2枚目に基本理念がありますが、達成目標のようなものがあれば教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国営木曾三川公園基本計画の基本理念に基づき事業を実施しております。実施にあたっては、5年ごとに「整備・管理運営プログラム」を作成し、社会情勢の変化に対応しております。</li> <li>現プログラムは、令和3年～令和7年までのものですが、次期プログラム策定時に完了年度も含め見直しを行います。</li> <li>・具体的な達成目標のようなものはありませんが、多くの方に利用していただくよう基本理念に基づいた整備、運営・維持を実施しております。</li> </ul>
<p>河川敷や河川環境は、特殊な立地条件が担保されてきたため、本公園内には絶滅危惧種のハビタットとして機能している場所も多い。例えば、河川固有植物や群落の保全が公園計画や管理に取り上げられ、実施されている事例は少ない。また、自然生態系への負の影響が問題とされている特定外来生物や外来植物への駆除等の対応についても積極的に実施されている事例はまだ少ないのが現状である。公園計画や管理の目標として、生物多様性保全をさらに進める必要があると考えるが、現状や計画について説明いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国営木曾三川公園基本計画において、「国営木曾三川公園が目指すもの」として「自然環境への理解」を挙げ、河川管理者等との連携により河川特有の自然環境や生物多様性の保全・再生に努めることとしており、整備にあたっては、貴重な動植物等へは有識者の意見を踏まえながら出来る限りの配慮に務めております。</li> <li>また、特定外来種に対しても市民等と協働しながら可能な範囲で対応しております。</li> </ul>